

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司
メールアドレス：info@ogiharakenji.com
連絡先：042-705-5119 (ファックスも同じ)

おぎはら健司の市政リポート

参院選を終えて...

7月10日投開票の日程で行われた参院選ですが、座間市を含めた神奈川県選挙区で争われた4議席は、自公の与党系候補が3議席を確保するという結果に終わりました。

全国的にも与党が勝利を収めたという印象を受けますが、現職閣僚が二人落選し、改めて沖縄と福島それぞれの抱える課題の大きさが浮き彫りになったとも言えます。

また、東北地方の一人区では秋田県を除く全ての選挙区で野党統一候補が勝利を収め、農業分野に於けるTPPの説明不足など、真摯に受け止める必要があると考えます。

改選組、非改選組とを合わせて衆参両院で3分の2以上の賛成者が必要と言う非現実的とも言われてきた憲法改正が現実味を帯びる中、国民に見える形・分かりやすい形での議論が国会で交わされ、情報発信されることを切に望む次第です。

そして、座間市では9月末までの市議会議員の任期が迫る中、前号でお知らせ致しました、今期最後の行政視察について触れておきたいと思います。

鴨川市への行政視察について

今回の行政視察は、鴨川市の地域包括ケアシステムと、市内に所在する民間病院「亀田総合病院」との医療連携などについて、伺ってまいりました。

鴨川市は、南房総に位置する人口3万5千人弱の都市で、高齢者人口が12,392人(36.2%。毎年1%ずつ増加)と、超高齢社会に直面し、介護保険の状況としては、要介護認定者数を見ると平成12年の938

人から平成26年には2,289人と約2.4倍増加し、6.5%と15~6人に一人が介護保険を利用しているということ。座間市の数値は3.5%ほどで、28~9人に一人が利用している現状ですが、更に高齢者の人口(介護保険の第1号被保険者)で比較分析をすると、鴨川市では18.5%ほどが介護認定を受けており、座間市では14.7%弱にとどまっています。このことは、座間市のご高齢者の方々の自助努力や本市の地域包括ケアシステム担当当局の努力などにより本市の現状は、鴨川市と比較してもより適性な状況にあると言えます。

しかし、高齢化率が毎年上昇している本市の現状からも、手遅れになる前に更なる高齢化時代に対応するための新たなスキームを構築し、将来世代の負担を軽減していくための施策を、介護予防の観点からも健康寿命の増進と言う観点からも充実させていかなければならないと感じました。

病児・病後児保育の実現を！

また、本市に於いても4月に開院した民間病院「座間総合病院」や「相模台病院」との地域医療連携体制の充実が重要課題の一つと言えますが、鴨川市&亀田総合病院との連携は、人口3万5千の町に、全てのスタッフをあわせると1万人以上が勤務する医療機関という特殊な関係のものであり、本市の参考にはなりにくいと感じました。

しかし、亀田総合病院が実施している「24時間365日対応型の児童ホーム」は、とても魅力的に感じましたし、私が推奨しており民間保育園関係者からも要望の多い「病児・病後児型保育」実現のための連携に向けた大きなヒントを頂きました。